平成 30 年度第 1 回美唄市総合教育会議録

- 1 と き 平成 30 年 8 月 23 日 (木)
午後 3 時 00 分 ～ 午後 4 時 20 分
- 2 ところ 市長会議室
- 3 出席委員
高橋市長 星野教育長 高橋教育委員 土肥教育委員 齋藤教育委員
今野教育委員
- 4 説明員
総務部 (事務局)
中平総務部長 村上総務課長 置田総務課長補佐 新総務課総務係長

教育委員会
森川教育部長 阿部学務課長 松井指導室長 谷村生涯学習課長
川西スポーツ振興課長 高橋学務課総務係長
- 5 開会
- 6 協議事項
 - (1) 現教育大綱の検証について
 - (2) 次期教育大綱のたたき台について
 - (3) その他
- 7 閉会

概要記録

15 : 00

●高橋市長 本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、この法律において、この総合教育会議では、市長と教育委員会の教育委員とが、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の考え方等について協議、調整を行うこととして定義付けられております。

特に、本日の協議事項となっております教育大綱につきましては、教育委員の皆様から、色々な御意見をいただき、協議調整を尽くし、美唄市の教育のあるべき姿、あるいは課題などを共有してまいりたいと考えているところでございます。

豊かな人間性と創造性を備え、これからの社会を担う子どもたちを育成するという、教育の使命は、普遍的なものであります。

明日の美唄市を担う子どもたちが、社会の急速な変化を乗り越え、未来を切り拓いていく力を育めるよう、地域一体となって、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、是非とも忌憚のない御意見を賜ります様よろしくお願いいたします。本日は宜しくお願いいたします。

●中平総務部長 私の方から教育大綱について、ご説明させていただきます。

教育大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 において規定されているところでございまして、1 点目といたしましては、首長が、国の教育振興基本計画の一部を参酌し、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものとされております。

また、2 点目といたしまして、市長が大綱を策定するに当たりましては、あらかじめこの総合教育会議において協議が必要とされているところでございます。

総合教育会議における協議調整事項につきましては、教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置についての協議などとなっております。

本日の協議事項の 1 につきましては、この規定を受けまして、平成 28 年度から平成 30 年度までを対象期間として策定いたしました現教育大綱が最終年度を迎えることから、その検証を行うものでございます。

なお、現教育大綱の検証内容につきましては、教育委員会事務局に説明させていただきます。

●**森川教育部長** 資料1 現教育大綱の検証につきましては、私の方から説明させていただきます。

現教育大綱は、最終年度でございますので、平成28年度から平成29年度の検証について御説明させていただきます。

はじめに、構成概略についてでございますが、基本方針としてまち全体で子どもを育む教育の推進から5つ目の文化芸術創造都市としての飛躍までを基本方針としてございます。そこで、美唄の子どもたちがこころ豊かに、健やかに成長し、将来、積極的に社会とかかわり、自らの役割と責任を果たせるよう、次の事項に取り組み、美唄の教育を進めることが定められております。

次に、子育て支援と教育の連続化の検証としまして、びばいっこすくすくプランの基本施策に基づいた各事業を実施するとともに、これまで行われていた幼小、小中学校等の学校間連携をさらに促進させるために、平成28年度に、連携事業を取りまとめた幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校事例集を作成し、市内の幼保小中高連携の円滑な実施の支援に努めました。

確かな学び、豊かな人格形成を育むためには、学びの連続性が重要であることから、引き続き、幼小連携、小中連携、中高連携の推進に努めてまいります。参考情報については資料項目の右側に記載のとおりでございます。

コミュニティスクール導入の検討については、平成29年4月に美唄市学校運営協議会規則を制定し、学校運営協議会の導入に向けて取り組み、平成30年4月末段階で、すべての小中学校において導入され、現在、各コミュニティスクールでは、活動の充実に向けて取り組んでいるところでございます。なお各年度の参考情報については資料に記載のとおりです。

様々な人材がチームとして学校を支える環境づくりについては、学校の最高責任者である校長が優れたリーダーシップを発揮し、マネジメントサイクルによる学校評価、人事評価、授業改善を行うとともに、教職員との強い信頼関係のもと内外関係者の協力支援を含めチーム学校として学校経営方針を確実に実践できるよう取り組んでいるところでございます。その他取り組みについては、資料のとおりALT外国語指導助手が平成28年度2人になっております。また、スクールソーシャルワーカーの常勤化を平成30年度から行い、本の読み聞かせボランティアや冬休みスキー授業等の事業回数や延べ人数を記載しております。

二つ目の基本方針であります、子どもの豊かな学びを支える教育環境づくりについて、美唄の子どもたち誰もが安心して成長していくことができるよう、次の事項に取組み、豊かな学びを支える教育環境づくりを進めますということで、小中連携教育の推進の検証として、確かな学び、豊かな人格形成を育むためには、学びの連続性が重要であることから、幼小中連携の推進に努めております。①に記載のとおり道教委の発達障がい支援成果普及事業の指定校として栄幼稚園、中央小学校、美唄中学校での実践研究の成果を広く発表しているほか、実践事例集編纂し、全道に広く普及しました。また、②に記載のとおり平成28年度から校種間連携を進めてきました。児童数の減少等に伴い、集団による練習や活動の機会を設けることが困難な状況となっている学校学年がみられることから、小学校間での連携を計画的、継続的に進めております。その他参考情報は資料に記載のとおりです。

心を育てる教育の推進とインクルーシブ社会の構築の検証については、①の市内教職員を対象にカウンセリング研修を実施し、カウンセリング手法を使った教育活動等、心を育てる教育の推進に努めてきております。また、②に記載の特別支援教育につきましては、共生社会の形成に向けて、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、特別支援教育支援員を効果的に活用し、特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じるとともに、専門チームによる巡回相談や特別支援教育連携協議会、各学校の特別支援教育コーディネーターの連携や資質向上を図るための研修を通じ、特別支援教育の充実に努めております。参考としまして、特別支援教育支援員の配置やカウンセリング研修回数について記載しております。引継ぎ件数について個人カルテを作成し、学校生活での指導の工夫に活かしています。

三つ目の小中学校のあり方に関する検討でございます。平成29年6月美唄市小中学校適正配置計画を策定し、小中学校の適正配置について、保護者、地域の方への説明会や協議等の結果、茶志内小、峰延小中学校の閉校等について、地域及び保護者合意をいただいたところでございます。現在、平成31年3月末閉校の茶志内小と峰延中について、統合準備委員会と連携し、子どもたちが戸惑いなく、期待や希望をもって学校生活を送れるよう教育環境の課題整理に努めています。また、同様に平成32年3月末閉校の峰延小についても、平成30年度中に統合準備委員会を立ち上げて取り組んでいる状況でございます。また、平成30年度は、具体的な統廃合案を示した上で、南美唄小学校、南美唄中学校について、保護者、地域の皆さんと意見交換を進めているところでございます。

続きまして、三つ目の基本方針であります地域資源を生かした多様な教育学習機

会の創出について、これは、美唄にある様々な地域資源を活用し、多様な教育や学習のかたちを選択できるよう、教育機会の創出を進めているところでございます。

美唄の歴史や伝統文化、産業を知る学習の推進であります。第2次美唄市生涯学習推進計画後期基本計画の各施策に基づき、郷土史料館をはじめ、図書館、美唄サテライトキャンパス事業の講座において、美唄の歴史を取り入れた事業を実施しました。また、無形文化財である峰延獅子舞について、平成28年度から平成29年度に3回にわたり、市内全域の子どもを対象とした子ども伝承講座を実施したほか、平成29年度には平成27年度に峰延獅子舞保存会が後継者を富山県南砺市に派遣したことに関連して富山県の保存会が来美し、獅子舞の共演、交流会を実施するなど、美唄の歴史や伝統文化、産業を知る学習の推進に努めてまいりました。なお、美唄サテライト・キャンパス事業において、美唄の歴史等の講座を実施したことや、峰延獅子舞の取組等については参考欄に記載しております。

学校を拠点とした生涯学習社会と地域コミュニティの再構築についてですが、これまでも、学校開放事業等を通じて保護者や地域の方々とのレクリエーション等に使用されており、地域によっては、夏のお祭り会場や世代間交流事業等に使用され、地域住民のふれあい交流に寄与しています。

また、学校地域支援事業支援本部に登録されている学習ボランティアなどのほか、平成29年度から各学校に導入されているコミュニティ・スクールにおいて、学習支援ボランティアや清掃ボランティアなど、学校支援活動等を通じた地域ボランティア活動が始められております。参考欄には南美唄サマーフェスティバルの取組み等について記載しております。

続きまして生涯学習センター（仮称）の検討についてですが、市民会館、公民館及び図書館については、老朽化が進んでいることから、これらの機能を有する生涯学習センター（仮称）の検討について、第2次生涯学習計画後期基本計画にも掲載されておりますが、現在までのところ、公共施設総合管理計画と整合性を図りながら、立地適正化計画の策定作業の中で検討を進めているところでございます。

次に四つ目の基本方針として健康長寿社会の実現についてですが、ここでは少子高齢化が着実に進行する中、世代を超えて、健康づくりやスポーツを楽しんでいけるよう、次の事項に取組み、健康長寿社会の実現を目指すこととしています。

スポーツ健康都市宣言によるスポーツと健康づくりの連動の検証として、子どもたちの運動習慣の定着による体力の向上を図るとともに、高齢者を含め家族と一緒に運動を親しむきっかけづくりを行うことにより、健康づくりに対する機運を高めることに努めているところでございます。参考欄にはサイクリングの普及、チャレ

ンジデーの参加活動の他、まちづくり市民アンケートの結果として1日30分以上、週2回以上の運動習慣を身に付けている市民の割合を記載しているところがございます。

次に、子どもから高齢者まで誰もが参加できる生涯スポーツの推進については、ライフステージに応じた運動スポーツの実践については、これまでの取り組みのほか、平成28年度から、びー助健康体操の普及に取り組んだほか、幼児期からのアクティブチャイルドプログラムといった新たな取り組みが進められているところがございます。参考欄には各事業について記載しております。

次に、まちの一体感が生み出される健康づくり運動の推進についてですが、平成27年度から住民参加型スポーツイベントチャレンジデーに参加し、市民の健康づくりに関する意識を高める取り組みとして行っているところがございます。参考欄には住民参加率を記載しております。

基本方針の文化芸術創造都市としての飛躍として、美唄の自然環境や歴史、文化を大切に、独自性のある文化の振興を図っていきけるよう、次の事項に取組み、文化芸術創造都市としての飛躍を目指すとし、次の事項で未来を拓く歴史と文化遺産の承継ですが、3 地域資源を生かした多様な教育学習機会の創出①美唄の歴史や伝統文化、産業を知る学習の推進の検証と同じですので、説明を省略いたします。

続いて、自然環境への理解と保護について、宮島沼保全活用計画に基づき、宮島沼水鳥湿地センターを拠点として、自然と親しむことにより環境保全の大切さを感じることが出来るよう、子供たちや地域住民を対象としたイベントの開催や、環境学習会などを開催しました。今後も、時代を担う子供たちの環境学習や自然環境保全の取り組みについて推進してまいります。参考欄には各種イベントの参加者人数を記載しております。

美唄らしい文化芸術の創造につきましては、3 地域資源を生かした多様な教育学習機会の創出①美唄の歴史や伝統文化、産業を知る学習の推進の検証に加え、平成28年4月よりアルテが博物館法に基づく登録美術館となり、名称も安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄に改称したほか、平成29年度に開設25周年を迎え、NPOとの連携等により記念展覧会等を開催しました。また、アルテピアッツァ美唄の空間を活用し、これまで実施してきたところを掘る授業などに加え、対話型美術鑑賞プログラムを実施し、美唄らしい文化芸術の創造に努めているところがございます。

●高橋市長 ただいま説明がありました件につきまして、御意見、御質問等があればお願いいたします。

他にないようですので、次に移ります。

協議事項の2つ目、次期教育大綱のたたき台について、説明願います。

●中平総務部長 次期教育大綱のたたき台につきましては、先ほど、若干、説明させていただきました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定を受けまして、市長が大綱を策定する上で、まずは、その方向性について協議をお願いするものでございます。

今後のスケジュールにつきましては、基本的には、教育大綱の策定にあわせ、次年度の教育施策やその予算などについて概ね2回程度開催し、その他緊急時には必要に応じその都度開催することを考えております。

なお、教育大綱のたたき台については、教育委員会事務局から説明いたします。

●森川教育部長 次期教育大綱のたたき台につきましては、私の方から説明させていただきます。

それでは、資料2をご覧ください。

大綱策定について、平成27年4月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が一部改正され、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、地方に対する国の関与の見直しが図られるとともに、市長と教育委員会の連携の強化が図られました。

この法改正の中で、地方公共団体の長は、地域の実情に応じて、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることとされました。

本市においても、人口減少、少子高齢化等の進行、多くの自治体が同じく抱える地域の課題を踏まえ、これらを克服するための施策を示した美唄市総合計画との整合性を図りつつ、これからのまちづくりを見据え、成長する市民社会を支える教育、文化、芸術の創造という理念の下、平成28年2月に、平成30年度までの3年間を期間とした教育大綱を策定しました。

まち全体で教育を推進し、子どもの豊かな学びを支える教育環境を作り上げるとともに、地元愛を育むため、市民一人ひとりが生涯学習の視点に立った教育活動の推進、市民一人ひとりが生きがいを感じられる学習環境の充実を図りながら、健康づくりやスポーツ文化芸術の振興を通じ、子どもたちの創造性と人間性を育む市民社会の構築することを基本方針とした教育大綱の最終年度を迎えるにあたり、この

間の成果と検証を礎に、本市の教育を通じたまちづくりを未来の美唄に継承するための総合的な施策の指針として、新たな教育大綱を定めるものでございます。

次に大綱の位置付けについて、この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、本市の教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する施策の総合的な推進を図るため、総合教育会議において市長及び教育委員会が協議調整し、市長が策定する大綱でございます。

次に関連計画との整合性について、本市における最上位計画である第6期美唄市総合計画びばい未来交響プラン後期基本計画をはじめ、新びばいっこすくすくプランや第2次美唄市生涯学習推進計画後期基本計画などの関連計画との整合性を保ちつつ、将来のまちづくりのための施策を、教育、文化、芸術、スポーツという視点から総合的に推進していきます。

また、次期総合計画などとの整合性を図るため、平成32年度に見直しを行うほか、社会情勢の大きな変化があった場合などについても、必要に応じた改定を行うなど、柔軟かつ適正に対応してまいります。

大綱の期間でございますが、教育大綱の計画期間は、平成31年度から平成34年度までの4年間としますこれは、法律の規定を参考に国の教育進行計画を基に策定するものでございます。

大綱の基本理念としましては、可能性に挑戦し、次代に向かってたくましく生き抜く力の育成としております。

次に大綱の基本目標として、まず一つ目の社会に求められる力の育成については、新学習指導要領で求められている主体的、対話的で深い学びを実践し、美唄の子どもたちに未来を拓くために必要な資質能力を身に付けさせるとともに、キャリア教育や特別支援教育を充実し、社会的職業的に自立するための力を育むなど、社会に求められる力の育成が図られる教育を推進してまいります。この取り組むべき方向については資料に記載のとおりでございます。

基本目標の2の豊かな人間性と健やかな体の育成については、道徳教育は小学校は全面実施、中学校は来年4月から実施としております。基本的な倫理観や規範意識を身に付けるとともに、コミュニケーション能力の育成などを通じて、自分の価値を認識しつつ、他者と協働することの重要性などの理解を深める心を育てていくことや、体力運動能力の向上や食育の推進などにより豊かな人間性と健やかな体の育成が図られる教育を推進してまいります。その取り組むべき方向性としては、資料の①から⑥まで記載しております。

基本目標の3の地域との連携協働等の推進について、地域と一体となって子ども

たちを育てていくとともに、人格形成の基礎を培う重要な時期である幼児教育の充実や生まれ育った環境等に左右されることなく、健やかに育てるための教育環境づくりなど、地域との連携協働等を推進してまいります。その取組むべき方向性としては、資料の①から③まで記載しております。

基本目標の4の学びをつなぐ学校づくりの促進については、児童生徒の発達段階に応じた系統的な教育活動の充実や、特色ある高校づくりのほか、教職員の資質能力の向上や子どもたちの安心安全を確保するため、教職員が子どもたちと向き合う時間の確保や自らの安全を守るための能力を身に付けさせる学校安全教育の充実など、学びをつなぐ学校づくりを促進してまいります。その取組むべき方向性としては、資料の①から⑤まで記載しております。

基本目標の5のスポーツを通じた地域づくりの推進については、すべての市民が健康で生き生きと暮らすことができるまちを目指すスポーツ健康都市宣言の趣旨に基づき、生涯にわたり誰もが体力や年齢、性別、障がいの有無、興味や目的に応じて運動やスポーツに親しむほか、スポーツ大会開催や社会人、学生の競技チームなどの合宿受け入れなどによるスポーツを通じた地域づくりを推進してまいります。その取組むべき方向性としては、資料の①から③まで記載しております。

基本目標の⑥の学びを生かす地域づくりの推進については、美唄市にある様々な地域資源を活用し、多様な教育や学習のかたちを選択できるような学習機会の創出など学びを生かす地域づくりを推進してまいります。その取組むべき方向性としては、資料の①から③まで記載しております。

以上が、次期教育大綱のたたき台についてでございます。

●高橋市長 ただいま説明がありました件につきまして、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

●齋藤教育委員 次期教育大綱のたたき台について、市長から何かご意見はございませんか。

●高橋市長 人口減少が進む中で、地域で支え優秀な人材を育てるためにどのようなことが必要なのかという点について地域で協力をしながら検討していきたいと思っておりますし、時代のスピードが速い中でそこに乗り遅れないようにしていかなければならないと考えております。IT技術の問題など多様な時代になってきておりますので、美唄市の教育が追いつき対応していかなければならないと思っております。教育は

不変なものもございますが、一方で多様な事にも対応していかなければと思っております。

それでは次に移ります。

協議事項の3つ目、その他について、幅広い意見交換をさせていただこうと考えておりますので、何かございますでしょうか。

●**土肥教育委員** 思うところは様々ございますが、教育予算について、あらゆる面で教育的な予算付けについて頑張っていたきたいと思えます。先日、岩見沢市で教育委員が集まる会議がありまして、図書館の読書についてどのような取組みがなされているかということについて議題に上がりましたが、美唄市は図書館が指定管理になったばかりということで良かったのか悪かったのかまだ結果がでていない状況ですが、他市町村の状況を聞くとかなり努力をしているようでした。参考事例で恵庭市が発表していたのですが、素晴らしい取組みをされていまして、まち全体として子どもたちをどのように育てていきたいのか明確に伝わってくる事案でした。美唄市でも子どもたちをどのように育てていきたいのかということを知りやすく教育大綱にも盛り込み教育行政を進めていただきたいと思えます。

その他として、統合で学校が縮小している件について、近い将来学校がどうなってしまうのかということについては、皆さん不安に思っていることだと思います。これから子育てをしようとする人たちは特にだと思います。例えば、東小学校と中央小学校の体制がいつまでこのまま保つことができるのか、小学校2つ中学校2つでいけるものなのか、もしくは1つにならざるを得ないのか、今後10年間の方向性や見通しについても市の考えを明確に示していただきたいです。

●**高橋市長** ありがとうございます。予算につきましては市長部局と教育委員会とでヒアリングを行いながら必要な予算については、しっかりと措置をしていくわけでございますが、今は青少年の育成に関しては教育予算以外にもふるさと納税でも着実に寄付をいただいているところでございます。こういった基金も活用させていただき、必要な教育予算を確保できるように考えております。

統合の話につきましては、この10年次期総合計画の中で、どのような位置づけになるのか、周辺の自治体の動向も確認していく必要がございます。いずれにしましても教育はどこの地域に生活していても平等に受ける権利があると思っておりますので、市民がしっかりと権利行使できるように努めていくことが重要であると思っております。その手法等については委員の皆様からの御意見をもとにさせていた

だき、将来的なビジョンについても示していくことが重要であると考えております。

●**今野教育委員** 学習指導要領にもあります、英語教育が導入されることによります。それに従い、オール英語の時間が確保されることになると思います。先生の指導に差が出ると教育を受ける側にも差が生まれることが考えられますので、英語の専門の先生を確保することやALTの増員を早急に行っていただきたいといます。

スポーツのことについて、健康都市宣言をしている限り、まず子どもの頃からスポーツに触れ合う機会を与えることが大事だと思います。しかし、小規模校の子どもたちは、スポーツに触れる機会が少ないため、やりたいことができない状況です。例えば、野球やバスケットがやりたい場合も教えてくれる先生がいないことや、子どもの人数が足りない場合などです。美唄市としてひとつの少年団を競技ごとに設けて市がバックアップし、具体的にはスクールバスを活用するなど子どもたちが選べる環境を提供することができればと思います。実際に何十人もやりたいことができずに家でゲームをするようなことも聞いておりますので、このことも大事であると考えています。

●**高橋市長** ありがとうございます。英語教育については、オール英語の授業で、ALTの配置は重要であります。現在市では、2人のALTがおります。今回1人アメリカから若い先生がきましたが、子どもたちのコミュニケーション能力が重要でありますことから、十分に見極めながら採用をしていくことが大事であると思っています。例をあげますと、ある自治体でALT5名おりますが、先生の比較をしてしまう現状があり、保護者からランク付けのようなことをされていることになっている例もあります。このことで、心の病などになっているということも聞いております。引き続き関係団体と協議していかなければと考えおります。グローバルな国際社会においてはその必要性は大変高いことでもありますので、学べる英語身につく英語を実践の中で覚えていくということが大事であると思います。子どもは意外と垣根がなく、ある国から小学生の子どもを受け入れることになりまして、その子は英語を話します。その子についてはPTAから心配の声もあがったのですが、子ども同士はコミュニケーションをとるために、自ら英語や単語を学んだり、コミュニケーションを図るための行動をするということも聞きました。このことから英語に関しては色々なやり方があるということを学びましたので、教育として英語を高めていけるために努力をしていきたいといます。

スポーツについては、全くそのとおりだと思います。コンパクトシティを進め

るためには、生活拠点と集落とがしっかりと公共交通で結ばれるということが大事であります。スクールバスを出すのも良いのですが、公共交通をしっかりとしたうえで、足りないところを繋いでいくということでもあります。これは非常に難しいことではあります、しっかりやっていかななくてはならないと思いますので、御意見として受け止めて今後の美唄市の教育に結び付けていけるように努めていきたいと思っております。

●齋藤教育委員 美唄市の人口減少をいかに食い止めるかということについて、人口を減少させない、よそから人が入ってきてほしいということを考えたときに子どもたちの教育については、まだまだ充実させていかなければならないと思います。土肥教育委員も言われていたように岩見沢市の会議において、学校図書の出し冊数ですが、学校に司書を配置することによって250%になったというまちもあったということですので、是非そういったことも考えていただきたいですし、今年予算要求の中で学習指導要領の改訂に伴ってのICT機器の導入というものがあつたと思いますが、そのあたりも是非充実させていただきたいと思っております。実際に学校に行ったときにどのようなものが必要なのかということ聞いた際には、機器はもちろんです、その中に入るものとしてデジタル教科書ないしデジタル教材なるものも充実させていただきたいという意見もありました。これがあることによって、教職員の働き方改革にもつながっていくと思っております。今現在、例えば算数の授業については先生方が放課後の時間を使って、自分で紙を切るなどして、教材を作っています。ここでデジタル教材が入ることによってその必要なくなったり、授業の準備の時間も減るということで、是非そのあたりも検討していただきたいと思っております。

●高橋市長 ありがとうございます。学校図書の出しの活性等について、十分承知をしているところでございます。どのような出しのスタイルが良いのかということは重要なことであると思っております。現在図書館は指定管理で、民間企業で運営しておりますが、民間業者も幅広いつながりやノウハウを持っていますから、協議をしながら図書館と協力していきます。すべてがお金で解決するわけではないと思っておりますので、まずは内容を充実させることができるように皆様と協議をさせていただきたいと思っております。

ICTに関しては、今後避けては通れない大変重要なツールであると考えております。多様化する社会においてそれにしっかりと対応できる人材を育成するためには、

このような教育が重要だと思います。単なる効率能力を上げるということではなくて、ICTに慣れ親しんでいくことや社会にでてしっかりと対応できるような教育が重要であると考えています。国もICT環境整備の支援がございますので、最大限そういったものを活用しながら、市の教育に還元できるように努めていきたいと考えております。

●高橋教育委員 図書館のことについて、皆さんのおっしゃるとおりだと思います。恵庭市の話もあり、石狩市の教育長からもありましたが、人がいなければ駄目だということでもあります。恵庭市の場合には学校図書も指定管理が受けているということでもあります。そういった連携効果もあると思います。また、ネット経由で簡単に本が借りられる仕組みがあるようです。幼児教育や発達障がいの子どもが増えている中で、子どもを見る先生や支援員の人がいなければならないと思います。子どもが親との関わりだけで過ごす機会が多くなっていることもあり、他人と触れ合う機会が少なくなり、小さな障がいをもったまま幼稚園等に行き育っていくという現状があります。人との触れ合いがないということが障がいをおこしていると感じています。地域との連携という話もありましたが、もっと地域と子どもたちが関わりを持つようにしていかなければ、今後子どもたちが家にこもることが増えていくという現実があると思います。子どもたちを見ることについては人員の確保が重要で、プログラミングは2020年に向けて色々な変化がある中で7月23日に新聞では石狩市が導入を進めているということもありましたので、他の自治体とスタートがずれないようにすることや早めに導入し、子どもたちや先生がこのことに慣れていくことも必要だと思います。

また、保育園と幼稚園の垣根を越えた管理をしていかなければならないと思います。

●高橋市長 ありがとうございます。大変重要なお提案をいただいたとっております。幼稚園と保育所の統合については、幼児教育は幼保一元などと言われておりますが、今は幼児教育という言葉に統一されているようですが、この振興を図るという意味では、教育委員会と保健福祉部の連携を図ることは当然のことですが、改めて道内各市町村の状況も調査してみたいと考えています。小学校入学前のすべての子どもを対象とした、幼児教育につきましても、家庭や地域を含め幼児教育に関わるすべての方が相互に協力することが大事だと思っております。市役所では組織の全体的な見直しをしなければならない時期ということもありまして、これらを含

めて今後の幼児教育に係る組織体制として、望ましいかどうかについて検討していかなければならないと考えております。

I C Tに関してはおっしゃるとおりだと思います。また、学校の先生が I C T 関係に偏りが出て困惑することがないのでしょうか。そして、この事業については、一斉にスタートさせられるようにすることが重要だと思います。財政的なことで教育に差が出るということは良くないと思いますから、国において配慮をしっかりともらえるように市としても訴えていきたいと思っています。

●齋藤教育委員 I C Tについては、アイパッドやスマートフォンを利用しながら、行っている授業もあります。先日、音楽の授業で自分のスマートフォンで合唱を録音してそれを子どもたちに聞かせ、それについて議論するような授業を行っている先生もいます。

●高橋市長 学校には年に数回行きますが、子どもたちの学び入れる情報の量はすごく多いと感じました。昔とは違い、教育の仕方や情報量が多いので、I C Tの活用がすごく必要であると感じています。学ぶ力はI C TやA I、I O Tなども含めて色々な場面で活用してかなくてはならないですが、確かに利便性も向上していきませんが、そのことが本人の学びに結びつくかどうかについてI C Tの活用のしかたを考えなければせっかく良いものも使い方を間違えれば結果的に効果的なものにならない評価になってもしかたがないので、美唄市もI C Tの環境を整備する中で、十分に現場で働く先生方と色々な話をしながら充実したI C Tの環境を充実させたいと思います。

●齋藤教育委員 そのためには、I C T導入に対しての支援員や指導員についても検討していただきたいと思っています。

●今野教育委員 I C Tに関して奈井江小学校ではアイパッドを導入したようです。その結果、学力が相当数上がったという情報もいただいております。

●高橋市長 学校で学んだことを家に帰った時に予習ができるなど色々なことができると聞いております。家庭環境もありますが、I C Tを活用することによって、子どもたちの気持ちを勉強の方に振り向かせられるようなやり方も重要なことだと思います。確かに他の自治体の例は私も聞いております。全国市長会などで話をす

る際もアイパッドの話なども聞いております。間違いなくそういったことは必要になってくるという認識でいますので、十分な協議をしてスピーディーな対応ができるようにしていきたいと思っております。

教育長から何かあればお願いします。

●**星野教育長** 新学習指導要領について、小学校が平成 32 年、中学校が平成 33 年から完全実施されるなかで、4 人の教育委員の方が言われていますように平成 30 年から 31 年は移行期間と言われております。この中でいかに教育環境を充実整備されるかということを考え、今乗り遅れてしまうと、平成 32 年に I C T が導入されたとしても使いこなせなければ現場が混乱しますので、教育環境の充実は今からしっかりと考えなければならぬと思っております。滝川市が I C T を導入した際はかなり混乱したと聞いております。その結果学力が 1 年間下がってしまった。なぜかという、先生がそこについていけなかったということがあります。これは移行期間がないまま導入したこともあり現場が混乱し、学力に影響を与えてしまったということだと思っております。今回は、移行期間が 2 年間ありますので、その中でしっかりと I C T 導入に向けたサポート体制の充実も重要ですので、その点は本日の総合教育会議の中でしっかりと市長と教育委員の皆様と情報共有ができたと思っております。I C T の関係やプログラミング教育に関して、札幌市が抜けている状況です。続いて石狩市と千歳市が先頭に立って走っている状況です。岩見沢市がほぼ導入されていない状況で、かなり自治体間で差が生まれています。これは財政的な面もあると思っておりますが、やるかやらないかということだと思っておりますので、市長から I C T、I O T の話がありましたが、これからの時代は物がインターネットにつながっていく時代になってきますので、我々は子どもたちが 10 年 15 年先にどのような時代を生き抜くのかということを見つめ、今何が必要なのかについて考え教育大綱に盛り込んでいくことが必要であると考えています。

学校司書の関係について、恵庭市は指定管理として学校図書館と市立図書館がネット環境でつながっているということでした。美唄市でもネット予約ができる環境整備を進めております。それが出来次第それが学校図書とどのようにリンクしていくのかを検討していく必要があると思っております。最近全国学力テストの結果が出ましたが、美唄市は全国全道に比較して、美唄市はレーダーチャートでいうと真ん中にある状況でどこにもくっついていない状況でした、岩見沢市は、小学校の国語と算数で全国を上回って、中学校では国語と理科で全国を上回っており、美唄市は国語、算数、理科すべてが大幅に下回っている結果になりましたので、この結果

を踏まえて今後、指導要領を変えたときにこのまま美唄の教育環境を推移したときにどうなるかということを考え、他の市町村が環境整備をして美唄市が乗り遅れると今ある差が更に広がるのが考えられます。この対策については、教育委員の皆様もしっかりと認識をしていただいておりますので、市長におかれましてはその意見をしっかりと受け止めていただき、市長部局と教育委員会が一体となって方向性を見出していくことが必要だと思っておりますので、今後とも宜しくお願いします。

●高橋市長 今のはじめて美唄市の子どもたちのデータチャートがはまっているということを知ることが出来ました。今後市の教育を進めていくためには教育委員の皆様方をはじめ、関係機関との情報の共有を今まで以上に強くしていかななくてはならないと感じております。市全体の教育として子どもたちがしっかりと学べる場を教育委員会だけではなく市全体として構築していかななくてはならないと考えております。データチャートの件はあらゆる手立てを検討して対策していかなければならないと思っております。

●星野教育長 先程、英語の話が出ましたが、これまで小学校に免許のある先生がいなかったことがあります。新学習指導要領がスタートした際には小学校で 70 単位時間、1 時間は 45 分の為、70 時間と考えてもよろしいですが、そのような時間が必要になってくるということがあります。その時間は、免許のない先生が教えるということになります。道教委には英語の専科の先生を小学校に配置してほしいと伝えています。他の自治体からもそのような要望が出てくるとは思いますが、通常の人事異動の中では英語の免許を持っている先生は少ないため、人事異動で美唄に来る保障はないので、英語の専科の先生が配置されれば免許がなくても担任の先生が英語を教えられることが可能です。一方で、A L T の関係は、石狩市や千歳市はすべての学校に A L T が配置されています。A L T が配置されることによって、弊害が出る可能性もありますが、配置されることによってプラスになる部分についても多くありますので、その点は予算の関係もあり、うちがすべてということにはならないと思っておりますが、あきらかに今の 2 名体制の中でこの 70 単位時間を消化していくことはかなり厳しいと考えております。中学校は英語が 140 時間オールイングリッシュになりますので、先生の負担感は相当なものが考えられます。その点も美唄市として、A L T 何名体制が理想なのかを検討していかなければならないと思っております。

●高橋市長 A L T の配置がどのぐらいが適正なのかを検討し、質の問題もありま

すので、どのような人を採用するのか見極めも大事になってくると考えております。

その他ご意見が無いようですので、引き続き宜しくお願いいたします。

以上で、本日の議題は終了となりますが、事務局から何かありますでしょうか。

●村上総務課長 教育大綱の策定のスケジュールにつきましては、本日の協議事項にありましたたたき台の協議内容を踏まえ、教育委員会と連携し、事務局において大綱案を作成したいと考えております。何かご意見等ございましたら教育委員会事務局を通じてご連絡いただきたくお願いいたします。今後総合教育会議を2回程度開催させていただき、さらに協議を重ね、来年の3月までには大綱を確定したいと考えております。なお、次回の総合教育会議の開催予定についてですが、例年11月中旬頃に、次年度の予算編成方針が財政当局から出されますので、この時期、11月頃に教育大綱と次年度予算の調整事項などを協議事項として開催したいと考えております。

その際には、あらためてご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

●高橋市長 次回は、11月を目途に開催をさせていただきたい、という内容でございますが、皆様方から何かありませんか。ないようですので、以上をもちまして第一回の総合教育会議を終了したいと思います。お疲れ様でございました。ありがとうございました。

16 : 20 終了

以上会議の顛末を記載する。